

『長谷部誠さん』が 日本ユニセフ協会大使に就任

12月24日、プロサッカー選手として世界の舞台で活躍されている長谷部誠選手が、日本ユニセフ協会大使に就任されました。飛行機の機内で手に取られたユニセフの封筒をきっかけに、長谷部選手がユニセフ・マンスリーサポート・プログラムを通じて毎月定額のユニセフ募金を始められたのは、約10年前の2007年。以降、ユニセフ公共CMへの出演やご自身の公式ホームページなどを通じた寄付の呼びかけに加え、東日本大震災被災地の子どもたちへの支援など、長谷部選手は公私両面でユニセフの活動を応援してくださっています。日本ユニセフ協会として長谷部選手のご貢献に対する感謝を示すとともに、引き続きユニセフの活動にご協力いただくため、長谷部選手



©日本ユニセフ協会/2016

の活動を高く評価するユニセフ本部の承認の下、ユニセフ親善大使の「国内大使」にあたる「日本ユニセフ協会大使」に就任いただきました。ユニセフは、幅広く世界の子どもたちが直面する問題を訴え、ご支援を呼びかけるため、社会に大きな影響力を持つ芸能・文化・スポーツなどの世界で活躍されている方々のお力をお借りしています。リオネル・ messi選手やデイビッド・ベッカム氏など多くの方が親善大使として協力してくださっています。 (日本ユニセフ協会ホームページより)

第38回ハンド・イン・ハンドを実施しました

……栄養不良から小さな命を守ろう……

ユニセフ ハンド・イン・ハンドは、1979年の国際児童年に始まりました。だれでも気軽に参加できる身近な国際協力です。12月23日、仙台市青葉区一番町のフォーラス付近やクリスロード入口付近で募金活動を行いました。気温は高かったもののとても風の強い日でしたが、ガールスカウトや小学生の皆さん、一般の方など約70名がボランティアに参加し、募金を呼びかけました。ご協力いただいた募金は、76,321円でした。ボランティアに参加して下さった皆さま、足を止めて募金にご協力くださいました皆さま、ありがとうございました。



ユニセフ・ブルーのサンタの帽子が
すてきでしょ！ 手作り作品です

ボランティア交流会を実施しました

ハンド・イン・ハンド終了後、15名の参加で1年間の「ごくろうさん会」を行い、ユニセフ・クイズや来年の抱負を語りあいました。なごやかな交流の場となりました。



河北新報社寄託金贈呈式 1月24日

河北新報社に市民や企業から寄せられた善意の寄託金を宮城県社会福祉協議会と仙台いのちの電話、宮城県ユニセフ協会に贈呈されました。

2016年下半期の分で、ユニセフへは159万2,466円が寄せられました。ありがとうございました。



日本ユニセフ協会から、10年以上毎年募金協力を継続している「永年協力校」や、1年間に30万円を超える募金協力のあった「高額協力校」、「永年高額協力校」に『感謝状』が送付されています。宮城県内でも32校が対象となっていました。ハンド・イン・ハンドなどでがんばってくれているみなさん、ありがとうございます。これからも世界中の子どもたちが元気に過ごせますように、ご協力よろしく願いいたします。

